

カニズムとしては、金星では温室効果が強く、太陽光度が今の85%くらいになった20億年前頃には海は蒸発し、水蒸気は紫外線で壊れ水素と酸素になり、水素は宇宙へ熱逃散し、酸素は地表に吸収されたとするrun-away greenhouse効果があげられましょう。勿論この種の議論はこれから詰めなければならない点が多く、特に水が800→10気圧となって以後、どうして現在の0.1気圧迄減少し得たかは大問題です(Donahue, Space Science Rev. 20, 259, 1977)。

炭素質隕石には鉄は殆んど酸化鉄の形で入っており、それに触れたガスは酸化型になります。ヴァイオングの結果もそうだったので、この頃はアメリカの科学者も皆そう考えざるを得なくなったようです(Rasool, Hunten and Kanla, Physico Today, July, 1977, p. 23; Owen and Andes, Science, in press). Urey-Miller反応に惑わされることなく、これからは酸化型大気中での生命形成の追求が盛んになるでしょう。(清水幹夫)

### 学会だより

#### 春季年会の開催と講演の申込について

今春の年会は、東京大学理学部化学科講堂(本郷構内・御殿下グラウンド北側)において、5月8日(月)から5月12日(金)にわたって開催の予定です。但し、天文月報 Vol. 70, 11号「学会だより」において御説明した事情により、今回の講演発表は、従来通りのシングルセッション形式で行われます。講演数に応じて、8日(月)午前・午後ないしは9日(火)午前から講演発表が開始されますので予め御諒承下さい。春季年会プログラムは、4月20日発行の天文月報5月号に掲載されますので、特に講演発表開始日時に御留意下さい。

講演申込みは、『〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 東京天文台内、日本天文学会年会係』あてに、封筒の表に「講演申込書在中」と朱筆の上3月20日(月)までに必着するよう規定の申込用紙を用いてお送り下さい。

なお、今春の年会予稿集より、予稿集を講演補助として従来以上に活用できるよう1講演当り1頁(約1000字分)を割り当てることになりました。従って、今回より、講演申込み用紙の形式が変りましたので、従来の用紙は使用できません。御注意下さい。更に、今回より年会研究発表における分野の区分が次のように変更されましたので、このことにも御注意下さい：1. 観測・測定装置、情報処理 2. 位置天文学 3. 天体力学 4. 太陽系 5. 太陽 6. 恒星 7. 星間物質・星雲 8. 銀河系・恒星系 9. 高エネルギー天文学 10. 銀河、宇宙論 11. その他。

講演申込み用紙は、支部にまとめて送ってありますので希望者は返信料50円切手を同封の上、下記の理事へお申し出下さい。

北海道：兼古 昇 〒060 札幌市北八条西5丁目  
北海道大学理学部物理学教室

水 沢：原 忠徳 〒023 水沢市星が丘町 2-12  
緯度観測所

仙 台：竹内 峯 〒980 仙台市荒巻字青葉  
東北大学理学部天文学教室

東 京：平山 淳 〒181 三鷹市大沢 2-21-1  
東京天文台

名古屋：山下広順 〒464 名古屋市千種区不老町  
名古屋大学理学部物理学教室

京 都：小暮智一 〒606 京都市左京区北白川追分町  
京都大学理学部宇宙物理学教室

中国・四国：富田憲二 〒725 広島県竹原市市場1294  
広島大学理論物理研究所

九 州：上西啓祐 〒860 熊本市黒髪 2-39-1  
熊本大学理学部物理学教室

◇講演申込者で、年会出席旅費の補助を希望される方は、支部理事を通じて、3月20日(月)までに「東京天文台内 日本天文学会理事長」あてに申し込んで下さい。但し申込みのできる人は、52年度会費納入済みの人で、原則として、連名の場合でもスピーカーであり、正式の給与を受けていない人(大学院生など)に限ります。

◇講演申込み・発表に際しては、特に次の事項に御留意下さい。

1. 講演は1人1回に限る。
2. スピーカーを発表者の筆頭に書くこと。
3. ビラの使用禁止。スライドまたはオーバーヘッドプロジェクター使用に限る。
4. 講演内容は完成度の高い研究とする。
5. 講演申込書についても注意事項を厳守のこと。

### 掲 示 板

#### 三菱財団自然科学研究助成募集

上記について三菱財団より本会宛に募集要項が来ています。応募を希望される方は学会庶務理事に御連絡下さるか、個別に下記宛「三菱財団自然科学研究助成応募要項」を御請求下さい。

宛 先 財団法人 三菱財団

〒100 東京都千代田区丸の内 2-5-2

三菱ビルディング 15 階

Tel. 03-214-5754

助成の金額は総額約1億1千万円、1件2千万円以内、研究期間は原則として1年、応募締切は昭和53年5月31日。助成金贈呈は10月19日。

この助成金の趣旨は、自然科学の基礎分野における重要かつ独創的な研究を助成して、わが国基礎科学部門の一層の向上、発展を期待することにあるとしています。本年度は九分野を重点的に助成の対象としていますが、その他の分野における研究も勿論選考の対象から除外するものではないとなっています。また助成金の使途は制限されており、設備費・消耗品費・旅費・謝金等いずれの項目についても申込むことができます。九つの重点対象分野のうち多少とも天文学に関連して来そうなのは (1) 非線型現象の基礎的研究, (2) 無定形物質系の基礎的研究, (3) 極低温における物理現象とその応用に関する基礎的研究, (4) 化学及び物性分野における新しい着想・新測定方法による研究であります。

**名古屋大学理学部物理教室助手公募**

次のような内容で助手 1 名を公募します。

所 属 物理学教室宇宙物理学研究室  
 専門分野 X線天文学  
 測定機器の開発と製作、観測およびデータ解析と結果の物理的解釈  
 着任時期 決定後直ちに着任を希望  
 任 期 5±2 年  
 提出書類 研究歴、業績表、主要論文別刷、研究計画、履歴書  
 締 切 昭和 53 年 4 月 15 日  
 提 出 先 〒464 名古屋市千種区不老町 名古屋大学理学部物理学教室 小林ひろ美  
 連絡先 同上、電話 052-781-5111  
 早川幸男 (内線 2453) 榎野文命 (内線 3540)  
 封筒の表に「助手応募書類」と記入のこと。

**東北大学理学部科学史担当教官公募**

1. 助教授又は講師 1 名
2. 理学部共通講座 (助教授のポストのみ)
3. 科学史又は科学概論: 理学部の学生一般を対象とした科学史又は科学概論の講義を担当する。
4. 着任時期 昭和 53 年 10 月 1 日
5. 提出書類 履歴書、研究歴 (論文リスト、主要論文別刷を含む)、応募者を評価しうる方 2 名の氏名・所属・連絡先・電話番号
6. 公募締切 昭和 53 年 5 月 15 日
7. 宛 先 〒980 仙台市荒巻字青葉 東北大学理学部科学史担当教官人事委員会
8. 問い合わせ先 東北大学理学部教授 森田 章  
電話 0222-22-1800 内線 5333

(注意) 封筒に「科学史担当教官応募書類」と朱書して書留で郵送のこと。

**第 8 回彗星会議の開催**

本年の彗星会議は、次の通り開催されます。  
 日時: 1978 年 3 月 25 日 (土)、26 日 (日) の 2 日間  
 会場: 栃木県青年会館  
 くわしくは 〒320 宇都宮市花房 3-3-44  
 渡辺公鋭氏宛にお問い合わせ下さい。

**お詫びと訂正:** 本誌 2 月号 33 頁野尻抱影先生を悼む——  
 弔詞——の文中、左段下から 4 行目 “天文学の視野”  
 を “天文学の裾野” とお詫びして訂正します。

1977 年 12 月の太陽黒点 ( $g, f$ ) (東京天文台)

1	1,	11	6	4,	54	11	6,	88	16	—,	—	21	2,	6	26	5,	23
2	1,	10	7	4,	27	12	—,	—	17	3,	15	22	3,	18	27	6,	20
3	1,	15	8	3,	44	13	4,	56	18	6,	15	23	3,	8	28	3,	20
4	3,	23	9	3,	50	14	4,	24	19	6,	24	24	3,	20	29	6,	37
5	4,	48	10	6,	55	15	3,	12	20	2,	9	25	—,	—	30	7,	66
(相対数月平均値: 48.5)															31	—,	—

昭和 53 年 2 月 20 日	発行人	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所	〒112 東京都文京区水道 2-7-5	啓文堂 松本印刷
定価 300 円	発行所	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
		電話 武蔵野 31局 (0422-31) 1359	振替口座 東京 6-1 3 5 9 2